

# 世界史研究推進委員会

横浜立野高等学校 大賀佐和子

## 今年度の活動

2025年度は、前年度に続き、コロナ禍前の活動の形に戻し、5月の社会科部会春季研究大会では県立相模原中等教育学校の上野信治先生から「歴史教育における中高接続の可能性と課題～授業改善の軌跡を踏まえて～」というタイトルで実践報告をしていただきました。8月の高大連携講座は、事前申し込み制を取り、会場に中央大学附属横浜中学校・高等学校をお借りして、生徒・教員共に多くの参加をいただいて、開催することが出来ました。3月の歴史分科会研究発表会にも戦後の日ソ関係史、冷戦とシベリア抑留問題、ウクライナ戦争などが専門である小林昭菜先生（関東学院大学）に来ていただくことができました。これらについて詳しくは本冊子に載っていますので、ご覧いただければ幸いです。

2か月に1度の例会では、桃木至朗著『市民のための歴史学』（大阪大学出版会）の読書会を中心に教材や授業法の開発と研究に取り組みました。

## 歴史総合は4年目、世界史探究も3年目を迎えました。

『歴史総合』は4年目を迎え、来年度の教科書はこれまでの取り組みを反映して改訂がなされます。『探究』科目では、『歴史総合』で行ってきた学習をさらに深めることが求められています。2年生、3年生と続けて履修する学校、3年生でのみ履修する学校、さらに単位数という点では標準の3単位で設置している学校もあれば、8単位から10単位の幅で設置している学校もあり、様々です。

『歴史総合』は教科書ごとに内容が異なり、「授業で何をすればよいか」ということについても、我々担当する教員に大きな「問い」を投げかけてきているようです。学習指導要領に忠実なもの、思考力や概念を重視しているもの、知識習得を重視しているものなど、様々な特徴を持っています。改訂が行われ、どのように変わるのかということは楽しみでもあります。次年度の改訂を予定している『世界史探究』の教科書についても同様なことが言えるようです。実際の授業内容は現場に任されていますが、これからも試行錯誤が求められていくでしょう。

## 歴史教育の危機と、これから

現在は歴史教員（特に世界史教員）にとって良い状況ではありません。新しいカリキュラムでは歴史科目は標準単位減となり、世界史は必修でなくなりました。しかし、現在の世界情勢を考えれば、世界史を学ぶ意義はますます大きくなっています。魅力的な歴史教育を現場から発信し多くの生徒を世界史に引きつけるため、世界史研究推進委員会は、活動をして参ります。

## その他

委員会や定例会の連絡はメーリングリストでお送りしています。委員会の活動に興味がある方がいらっしゃいましたら、お気軽に委員会メンバーまでご連絡ください。経験年数など関係なく、一緒に活動いただく仲間が増えることを心待ちにしております。（もちろん不定期参加でもかまいません）